



吉本みづる県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043(227)7411



壇上で第一海堡のパネルを掲げて質問する吉本県議

富津市 特集

か、地元のかんがい排水事業の早期完成を要望するなど、地元の声をしつかりと県政に届けました。

県議会で文教常任委員長や議会運営委員長を務めるなど、議会の中心的な役割を担う富津市選出の吉本充(よしもと・みづる)県議は、昨年9月定例議会の一般質問に登壇し、富津市沖の第一海堡について、近代遺跡としての文化的価値を強調し、護岸整備など保存に向けて国へ働きかけるよう、強く県に要望しました。また、吉本県議は、イノシシやサル、鹿などの有害鳥獣被害から県民を守るため、国が定めた緊急捕獲対策事業について、制度を利用しやすくするように運用基準を見直すよう求め、森田知事も同事業の効果的な活用を図るため、国と速やかに協議することを約束しました。そのほか、

第一海堡の整備と保存を要望!

遺跡調査の報告書

吉本議員 富津沖の第一海堡について伺います。幕末の頃から、外国軍艦の侵入から江戸を守るため、湾内には砲台や台場の建設が計画されました。その後、明治、大正にかけて、東京湾への軍艦の侵入を防ぐため、富津沖に三つの海堡と呼ばれる人工島が築かれました。このうち、富津沖に一番近い第一海堡は、明治14年から着工し、約9年の歳月をかけて竣工しました。これは大量の石材を海中に投入してその上に堤防を築き、さらにその内部に砲台を建設したものです。その広さは、2万3千平方メートルであり、地元中心に延べ32万人もの

このまま放置しておく、さらに崩壊が進んでいくのではないかと危機感を強めているところです。そこで伺います。文化庁による近代遺跡詳細調査の報告書が刊行されるのはいつになるのか。瀧本教育長 軍事に関する

護岸の崩落防止

吉本議員 第一海堡を管理している財務省に対し、護岸の崩落防止を申し入れるべきではないか。瀧本教育長 文化財の整備については、文化財の所在する地元市町村において、基本方針や管理計画等が作成され、その方針等に基づいて具体的な整備・活用が図られることが重要であると考

知事も上陸を

吉本議員 知事に第一海堡に上陸して、現地視察を行っていただきたいと思いますが、どうか。森田知事 議員の発言で、初めて第一海堡のことを知りました。現在、現地への立ち入りは禁止されていますので、立ち入り禁止が解



海上から第一海堡を視察する吉本県議

除されれば、ぜひ吉本議員と一緒にまいりたいと思います。千葉県としても大事にしたいと思っています。要望 不発弾が海に落ちたら、漁場をどうするかという話もあります。護岸崩落防止のため、県として護岸工事を行うよう、財務省へ申し入れていただきたい。

●県政や富津市のご相談、ご意見を聞かせてください

吉本充 県議事務所 TEL.0439-80-1885
〒293-0006 富津市下飯野1114-2

※公職選挙法の規定により、年賀状等のご挨拶は制限されています。このレポートをもって、ご挨拶に代えさせていただきます。

千葉県は全国屈指の食の宝庫

旬の食べ物情報発信を提言

吉本議員 さる9月28日、29日の2日間、勝浦市で当地グルメの祭典「関東・甲信越B-1グランプリ」が開催されました。

B-1グランプリは大変な人気で、この2日間で約12万人7千人が会場にきたとのこと。勝浦タンタメン」という食が地域おこしの起爆剤となり、多くの人が勝浦市を訪れました。私の地元にも「竹岡ラーメン」や「はかりめ丼」といった人気メニューがあり、それを目当てに多くのファンが当地を訪れます。その地にしかない「食」や旬の農

水産物は、地域の大きな魅力となつていきます。このように、千葉の魅力の大きな要素として、食があると思います。千葉を訪れるきっかけは、その土地の「風景」や「文化」であったとしても、2回、3回と繰り返し訪れるリピーターは、その土地の旬の食べ物や料理に魅了され、それを目的に来る方が多いのではないかと思います。

ワンの産出額を誇り、合わせてピワ、スイカ、メロン、イチゴ、ブルーベリーなどの果樹、また、イセエビやアワビ、イワシやサンマ、ノリ、アサリ、バカ貝などおいしい海の幸にも恵まれた全国屈指の食の宝庫です。しかし、あまりにも多くの農産物や水産物があるため、一つひとつが目立たず、そのことを知らない方も多くいるのではないのでしょうか。

千葉県には、こうした魅力ある食を支える素材が豊富にあります。梨、落花生、サツマイモ、大根など数多くの農産物が全国ナンバー

私は、千葉県の豊富な農産物や食の魅力をどんどん発信することが、農林水産業の振興にも、そして地域おこしにもつながるものと考えています。

そこで伺います。旬の食べ物情報を積極的に発信すべきと思うがどうか。

農林水産部長 本県の豊かな海の幸・山の幸の魅力を、県内外に向けて情報発信することは、農林水産業の振興のみならず、地域おこしの観点からも重要なと考えています。

このため県では、旬の食材をPRするフェアの県内外での開催や、テレビ等のマスメディアを通じた、観光情報と一体となった効果



あいさつする吉本県議

的な食の魅力発信にも取り組んでいます。

また、千葉の食材を紹介するウェブサイト「教えてち

古文書の散逸など懸念

吉本議員 次に文書館について伺います。

千葉県文書館は、県の公文書や古文書等の歴史的な資料の収集・整理・保存・提供を行うことにより、県民の県政に対する関心に応え、また、郷土への理解を深める役割を担っている大変重要な施設だと思っております。

専用の書庫がすでに満杯の状況であり、ここに収蔵できないものについては、書庫としての設備が整っていない部屋に仮置きしているとのこと。このような状況が続くと、県内の旧家などから文書館に寄託・寄贈される古文書の受け入れが滞り、それらの散逸や消滅を招きかねません。

私が監査委員の折、文書館の方から伺ったところにより、昭和63年の開館から25年が経った現在の収蔵資料は、公文書で約18万冊、古文書で約47万点に及び、すでに収蔵庫の約90%が文書等で埋まっているとのことでした。特に、古文書については、

また、公文書についても、いずれは収蔵能力が不足するようになるかと考えられます。文書等の適切な保管のためには、しっかりと防火対策や湿度等の環境の維持管理、利用しやすい書架の設置など、いろいろと費用がかかると思いますが、公文書や古文書は県民の貴

ばの恵み」をより多くの人に知っていただくため、本年6月、公式フェイスブックページを開設し、インターネット上の情報発信力を強化したところで。今後とも、マスメディアの効果的な活用やウェブサイト上の充実などにより、旬の食べ物情報を積極的に発信してまいります。

新たなルールについて検討しており、これにより保管文書量の縮減を図ってまいります。

また、公文書や古文書の保管スペース確保のための方策として、文書館やその隣にある政策法務課の書庫の改修、未利用県有施設での一時保管等を検討しております。

歴史は残るものではなく、残すものであるという言葉があります。国でも国立公文書館の新館建設に向けた動きがあります。

いつの世でも、公文書や古文書といった将来の文化財になるようなものについては、管理意識が余り高くありません。文書館が開館してから25年が経ち、古文書にいたっては、適切な防火設備もない場所に仮置きされています。しっかりと対応するのかが、総務部長 県では現在、公文書の保存期間や廃棄基準の明確化等、文書管理の



収蔵スペースが手狭になった県文書館

文書館の保管スペース確保を！



チーバくん物産館のオープニングで森田知事と吉本県議

